

「南海トラフ巨大地震に備えて」

座長 小澤 修一 (神戸赤十字病院 院長)

中 大輔 (日本赤十字社和歌山医療センター 医療社会事業部長)
(兼) 神経救急部長)

- S-01 東日本大震災後の南海トラフ巨大地震に対する当院の取り組み
静岡赤十字病院救命救急センター 救急科 救急科部長 中田 託郎
- S-02 徳島赤十字病院における災害対策 ―時間外発災を想定して―
徳島赤十字病院 副院長 郷 律子 他
- S-03 孤立が予想される高知県での災害対策
高知赤十字病院 救命救急センター長 西山 謹吾
- S-04 南海トラフ巨大地震に対する日赤和歌山医療センターの取り組み ―その現状と課題―
日本赤十字社和歌山医療センター 医療社会事業部(兼)高度救命救急センター 中 大輔 他
- S-05 今後の南海トラフ大災害においてとるべき戦略
東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授 石井 正
- S-06 被災地の災害医療コーディネーター統括下で行う医療救護活動
―日赤救護班が One of them で終わらぬための備えは?―
長岡赤十字病院 救命救急センター長 内藤 万砂文
- S-07 阪神・淡路大震災の教訓は東日本大震災に活かされたか?
―南海トラフ巨大地震に備えるために―
兵庫県災害医療センター センター長 中山 伸一
- S-08 南海トラフ巨大地震に備える ―日本赤十字社の課題と対応策―
日本赤十字社総合福祉センター 副所長 木村 尚文 他
- S-09 看護師として南海トラフ大災害にどう取り組むか
さいたま赤十字病院 看護係長 池田 稔子

はじめに

近い将来、その発生が確実視されている南海トラフ巨大地震に対する防災対策に関しては、阪神・淡路大震災、東日本大震災から得た教訓を活かし、政府、医療機関のみならず企業や自治体、関連機関が一体となり、より

積極的に推進していく必要がある。当シンポジウムでは、9名のシンポジスト(医師7名、看護師1名、事務1名)が、日本赤十字社としてさまざまな立場、また観点から、「南海トラフ巨大地震に備えて」というテーマで、災害対策の現状と今後の展望、課題について発表を行った。